

中央大学支部 中大技術士会

ニュースレターvol.20

会員の皆様へ

今年の夏は、猛暑、ゲリラ豪雨、竜巻の発生と多くの自然災害が発生し、例年と比較するとたいへんな夏でした。10月になりようやく秋めいてきて季候も落ち着いてきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年は、9月21日に在学生向けの技術士第一次試験の模擬試験を学内で実施しました。今後は、中央大学の在学生にも「技術士」の資格が浸透していき、ますます中大技術士会の会員が増えていくように期待しています。

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容とともに会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。

なお、下記活動計画のとおり、講演会などを計画しております、皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

また、当会では引き続き、会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ(<http://www.chuo-u-pej.org>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してみてください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「中大技術士会活動 10 年の歩み」：中大技術士会 幹事 鈴木 薫	2 ページ
活動報告	5 ページ
■ 幹事会	5 ページ
■ CO2 環境対策研究会	5 ページ
■ 部会報告	6 ページ
活動計画	8 ページ
■ CO2 環境対策研究会	8 ページ
■ その他活動計画	8 ページ
技術士第二次試験合格者から	9 ページ
■ 「技術士」：堀江岳人さん	9 ページ
■ 「技術士受験を通じて」：板谷越朋樹さん	10 ページ
技術士第一次試験合格者から	12 ページ
■ 「日本の技術で世界に貢献できる人材を目指して」：香月亜記範さん	12 ページ
■ 「憧れの技術士」：押田記一さん	13 ページ
■ 「技術者として」：佐藤基司さん	14 ページ

■ 「中大技術士会活動 10 年の歩み」：中大技術士会 幹事 鈴木 薫（上下水道部門）
はじめに

手元に 1 枚の CD-R がある。白門技術士会の設立総会時のプレゼンテーション用のパワーポイントである。この 10 年を振り返るにあたり、設立当時の資料を読み返した。現在、当会の技術士活動は支部昇格以降、活発で好調になってきており、大学側のニーズと当会の持つシーズが良い方向にマッチングしていく中で、平成 26 年 6 月で当会は設立満 10 周年を迎える。この機会にこれまでの大学技術士会としての活動を振り返ることが今後の活動の方向性を導き、さらなる活動の指標の確立の捷徑となると思料します。これは母校をこよなく愛する同窓技術士である発起人 24 名の気概のある先駆者としての熱情と深い矜持を抱いた物語である。



1. 平成 16 年 6 月 19 日（土）

白門技術士会は平成 16 年 6 月 19 日（土）に後楽園キャンパス 6 号館において設立総会を開催した。設立時の位置付けは中央大学学会の任意団体であった。同窓技術士が約 30 名参集し、設立趣意を中心に活発に審議を進め、総意のもとで総会は成立した。設立にあたっては総会開催の約 3 年前から構想に着手し、その後、準備に 2 年かけてステークホルダーと調整してきたので、当時を振り返ってみたい。

2. 状況把握・情報収集

設立のきっかけは当時の水道部会（現、上下水道部会）の部会幹事会終了後の雑談時において金川氏から設立の話があり、その後、機会あるごとにその可能性を模索してきた。当時の水道部会には同窓技術士が数名おり、積極的に部会活動に従事してきた関係でお互いその必要性は共通の認識として感じていたところである。そのような状況の中で、構想・準備段階でとったアクションは次のようなものであった。（順不同）

1) 本学の卒業生である各学科の教員への打診

特に工業化学科および土木工学科（いずれも当時）の教員の方々へ話を通した。

2) 土木工学科同窓会の役員・評議員の方々へのヒヤリング

3) 当時の 8 学科および 8 学科同窓会連絡協議会への相談

4) 学会本部事務局への相談

5) 中央大学理事への打診・相談

6) 理工学研究所・知財センターへの相談

7) 土木工学科四ツ谷倶楽部への照会

8) 125 周年記念プロジェクト事務局からの情報収集

3. 発起人委員会の立ち上げ

当時の大学および同窓技術士の置かれている状況を把握し、上記のように情報を収集した結果を踏まえて、最終的に学会事務局の助言をもとに立上げの準備をすることにした。設立の条件・環境が整い、もはや設立を真正面から受け入れざるを得ないような状況に自らを追い込んだ。

まず、はじめに、行動したのは発起人 24 名の確保であった。これは有志各自の持つネットワーク、職域、業界情報および日本技術士会の協力を得て対象者全員に発起人就任の同意を得て確保

した。次に対象となる有資格者、つまり同窓技術士の把握に注力した。公表資料・データはなく、また、個人情報ポリシーに抵触する懸念もあり、時間をかけて少しずつ確認して、最終的には 80 余名の同窓技術士を確保した。

トラブルこそなかったものの、全員が好意的とは言えない状況下での準備であった。全員が日本技術士会に入会していたわけではなく、その確認作業に 1 年以上かかったものである。対象者の把握には上記の他、業界紙の情報も利用させて頂いた。特に水処理業界の業界紙の企画で“同窓・同業”というコーナーで卒業生を大学別に紹介しており、これを大いに利用・活用した。さらに小職は日本技術士会に入会以来 30 数年が経過し、その会員活動、特に部会幹事活動 30 年を通じて得た情報を有効に利用・活用し、現状把握に努め上記のような結果につながったものである。

4. 設立総会の開催

発起人の確保、対象技術士の名簿整備をしながら、学会から提示された設立条件、審査要件および設立基準を満たしていると判断した後に、設立総会の準備を始めた。当時、学会事務局からの助言はおおよそ次のようなものであった。

- ・設立にあたっては現公認支部の規約・内規を参考にし、規約案を作成する。
- ・同時に発起人 20 名以上確保する。
- ・対象者である会員技術士名簿の整備をする。

設立準備が整ったところで設立発起人委員会の名のもとで会則を草稿し、加筆・修正を加え案内状を送付し、大学側のバックアップ・協力のもとで設立総会へとこぎつけた。当会の位置付けは職域で組織する支部としてスタートし、その後、支部公認の外部条件をクリアにしていこうことを活動の基本にした。

設立総会には本学副学長を始めとした 10 名のステークホルダーの方々に来賓として出席して頂き、議長選任、議事録署名人の選出後、設立趣意説明並びに本会名称、役員選出、規約承認等、熱心な審議のもとに総会を終了し、設立承認された。

一方、これら一連の動き・準備活動は業界メディアでも注目され、特にフジサンケイビジネスアイの技術士コーナーで取り上げられた（同誌の記事写真参照）。

設立後、大学技術士会として活動を開始して以来、約 10 年でここまで活発化したことは望外の喜びであり、本学関係者および学会の方々への指導や助言の賜物であった。また、公益社団法人日本技術士会の協力に負うところが少なくない。今後は活動基本の通り、会員始め、本学関係者や在学生の能力開発およびキャリアパスの一助になることを目指し、活動を継続していくことに一意専心するものである。

5. 大学技術士会連絡協議会への加入

設立後は日本技術士会の旧青年技術士懇談会のメンバーと共に他大学の技術士会の動きを情報収集した後に、大学技術士会連絡協議会（大技連）をゆるやかな形で立上げ各大学技術士会との連携を図り、そのネットワークの構築に努めたことも本会の会員拡大につながったようだ。現在、同会には大学技術士会 24 校の内、20 校が参加し、連携を継続して活動をしている（日本技術士会のホームページおよび総務委員会資料による）。これら一連の動き・活動が功を奏し、平成 25 年 6 月開催の日本技術士会定時総会において大技連の存在がクローズアップされ、同会のネットワークの一機関として承認され、前向きに活用されることになった（同会総会資料参照）。

以上

活動報告

■ 幹事会

本会では、概ね月に一度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学会役員室か会議室で行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。役員・幹事一同お待ちしております。下記に幹事会の内容を報告します。

行事名	開催日程	活動概要
平成 25 年度 第 3 回幹事会	7 月 22 日 (月) 18:30~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ・「科学技術と倫理」(全 1 年生対象=選択科目)「技術者倫理」(都市環境学科 4 年生)=必須科目)が終了したことを大学支援部会から報告があった。 ・今年度初めて実施する「技術士第一次試験模擬試験」について、大学支援部会から実施計画が発表された。模擬試験は 9 月 21 日(土)後楽園キャンパスで実施される。 ・2013 年 6 月 1 日行われた第 19 回定時総会は、近年最大の 40 名の参加で無事終了した報告があった。総会前に技術士第二次試験ガイダンスを行ったことも要因である。 ・6 月 22 日に学会支部「中大公認会計士会」総会に内藤副会長、加藤幹事、林幹事長が参加した。 ・名簿の追加、修正を小林副会長、志田幹事で行った。 ・大学技術士連絡協議会の合同講演会が 10 月 19 日東京都市大学で行われる。(鈴木幹事、佐藤幹事が担当)

■ CO2環境対策研究会

本研究会は、地球規模の課題となっている CO₂対策について勉強しつつ、大学、企業等が持つ CO₂対策に関する技術の相互利用、或いは技術の移転や共同研究を円滑に進めることを目的としています。詳しい報告は本会 HP (<http://www.chuo-u-pej.org/>) をご覧ください。

行事名	開催日程	活動概要
第 17 回研究会 研究会参加者 15 名 交流会参加者 講師 2 名を含めて 14 名	H25 年 7 月 12 日 (金) 13:15~16:30	合同資源(株)千葉事業所 講演 1)天然ガスの製造について 鋳業部長 樋口 康則 様 2)ヨウ素の利用について 機能ヨウ素製品部長 石井 利光 様 3)環境保全への取り組み 環境安全室長 渡邊 忠明 様 交流会：17:00~18:30 茂原駅「二幸総本店」

行事名	開催日程	活動概要
H24 第 7 回幹事会 参加者 幹事 6 名	H25 年 7 月 25 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00	第 17 回研究会 (合同資源) の報告 H24 年度活動報告 / H25 年度活動計画 H24 年度会計報告 / H25 年度予算の承認 話題提供 : 村上会長「私たちの暮らしと化学物質」—食品添加物—
第 4 回報告会	H25 年 9 月 7 日 (土) 報告会 14:00~17:00 交流会 17:30~19:00	1) 私たちの暮らしと化学物質 村上和雄会長 2) CO2 吸収材の最新の研究動向 大石克嘉 副会長 3) 歯科医療と応用化学及び主として従事してきた業務について 加藤行勝 幹事 4) 化石燃料を使わない発電構想 内藤堅一 幹事長

■ 部会報告

○広報部会

項目	内容
サーバー運営	① メールングリストおよび Web 名簿のメンテナンス実施 ② ドメイン名、サーバー利用の更新手続きを 10 月以降行います。
ニュースレターの発行	① ニュースレター vol.20 の作成および発行
HP 新規掲載	① ニュースレター vol.19 の掲載 ② 第 1 回、第 2 回テクノロジー懇談会開催案内掲載 ③ CO2 環境対策技術研究会第 17 回研究会報告掲載 ④ 幹事名簿、幹事紹介更新 ⑤ 会員の技術部門構成更新
会員の皆様へのお願い	① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先 : toiawase@chuo-u-pej.org ② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談、2020 年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお願いします。

○総務部会

項目	内容
総会・幹事会の開催、運営	・第 9 回定時総会を後楽園キャンパス 5333 教室で開催し、過去最多の 40 名参加でした。
名簿の管理、会計管理	・志田幹事に新入会員の名簿追加を依頼、広報部会に ML 整備を依頼した。
学会事務局との連絡調整	・ホームカミングデーが 10 月 27 日 (日) 多摩キャンパスで行われる。國島幹事が担当で学会会との事務連絡を行っている。
日本技術士会との連携	本会初めての企画である「技術士第一次試験模擬試験」を坂林幹事を中心に準備を行っていく。 これに先立つ「技術士ガイダンス」を 8 学科延べ 10 回実施し、第一次試験受験申込み書を 1300 部学生に配布した。

項目	内容
他大学技術士会との連携等	この間、大学技術士会連絡協議会合同講演会を10月19日、東京都市大学で実施される。
理工白門祭	11月2日～4日、後樂園キャンパスで行われる。 武安幹事を中心に実行委員会(学生)と交渉に当たる。

○企画部会

項目	内容
中大技術士会 H25 第1回特別講演会 中大技術士会総会後の特別講演として実施	日時：2013年6月1日(土) 講演会 16:15～17:45 交流会 18:00～19:30 会場：講演会：後樂園校舎 5335号室、交流会：5号館地下生協食堂 講師：中央大学生命科学科 諏訪 裕一教授 講演：「小さな生き物の微かな息遣いを聴く～中大式 GCMS による呼吸活性高感度測定法の確立と利用～」
法曹会との交歓会の企画	法曹会の幹事長以下の幹事の交代があり、新体制の幹事長等に今年の企画を法曹会が担当することになっていることを伝え、企画を要請した。
ホームカミングデーの申し込み 國島幹事担当	10月27日(日)のホームカミングデーに無料生活相談会として出展する。
白門祭の申し込み 武安幹事担当	11月2日(土)～4日(月・祭日)の白門祭に無料相談会として出展する。
テクノロジー懇談会の企画 國島幹事担当	中央大学理工学部電気電子情報工学科 橋本教授との交流をテクノロジー懇談会として企画 第1回7月26日(金) 第2回9月24日(火) 第3回11月26日(火)

○大学支援部会

項目	内容
技術士第一次試験模擬試験の実施	9月21日(土)、後樂園キャンパスにおいて、在学生を対象とした技術士第一次試験の模擬試験を実施しました。 申込者数127名のうち、71名が模擬試験に参加しました。 模擬試験の結果ですが、適性科目で38名、専門科目で25名、基礎科目で48名が合格点に達していて、その中で14名が3科目とも合格点に達していました。 なお、本試験は10月14日(月・祭日)に行われ、結果発表は12月18日の予定です。

■ 今年度の「科学技術と倫理」及び「技術者倫理」講義を実施

一年生を対象とした、「科学技術と倫理」の講義に講師を2名派遣し5月21日と5月28日に講義が行われました。

都市環境学科4年生を対象とした「技術者倫理」の講義に講師を14名派遣し、4月16日～7月16日に講義が行われました。

現在は、両講義の平成26年度講師を募集しております。希望される会員は、幹事まで申し出てください。

■ 平成 25 年度「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性」研究への参画

中央大学理工学部都市環境学科・國生教授が取り組まれている標記研究に中大技術士会から 12 名が客員研究員として参画しています。

平成 25 年度も前年度に引き続き中央大学理工学研究所研究プロジェクトとして採択されましたので、気象、船体構造、ソーラーセル、蓄電池、海洋法などのカテゴリーごとの課題について研究会を行っています。

平成 25 年度は、1) 4/20：リチウム空気電池、2) 7/20：前年度報告書について、3) 8/10：ソーラーセルの動向等をテーマに研究会を行いました。

今後は、ライフサイクルコスト面の研究など産総研等の専門家を招き研究会を行う計画です。また、工業所有権など知的財産権の取り扱いについても、並行して実施しています。

活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

■ CO2環境対策研究会

行事名	開催日程	活動概要
H25 第 1 回幹事会	H25 年 10 月 3 日 (木) 18:30~20:00	第 4 回報告会の報告 第 18 回研究会の企画 話題提供：未定
第 18 回研究会	H25 年 10 月~11 月を予定	

■ その他の活動計画

行事名	開催日程	活動概要
テクノロジー懇談会	第 2 回 9 月 24 日 (火) 第 3 回 11 月 26 日 (火)	中央大学理工学部電気電子情報工学科 橋本教授を囲んだ懇談会
ホームカミングデー	10 月 27 日 (日)	無料生活相談会として、メイン会場前 テントに出展する。
白門祭	11 月 2 日 (土)~4 日 (月)	無料技術相談会として、後楽園校舎 6 号館 1 階に出展する。
中大技術士会 H25 第 2 回講演会	10 月 25 日 (金) 講演会 18:00~19:30 交流会 19:30~20:30	場所：中央大学理工学部校舎 2 号館 2221 号室 講師：中央大学理工学部精密機械工学科 松本浩二教授 演題：「食品冷蔵を目的としたオゾンマイクロバブ ル含有氷の効率的製造方法について」
法曹会との交歓会	未定	

上記以外にも、幹事会（ほぼ毎月開催）や多くの行事を開催します。また、「大学との折衝」「各学部との交渉」なども行います。会員の皆様にも気軽にご参加いただきたく、役員・幹事一同お待ちしております。

技術士第二次試験合格者から

建設部門の技術士の堀江岳人さんと板谷越朋樹さんから、技術士試験合格体験談をいただきました。二次試験合格を目指している方にとって大変参考になります。ありがとうございます。

■ 「技術士」：堀江 岳人さん（建設部門）

私は札幌で育ち、その後、大学院時代を含め6年間、後樂園の理工学キャンパスで学生生活を過ごしました。大学院時代は、土木工学専攻で海岸工学を専門とする流体力学研究室に籍を置き、水口優教授の指導の下、海岸における周期の長い波（=長周期波。海辺で見える波とは異なり、目では明確に見えない周期が長い波で港湾における船体動揺の要因となっている波）について研究を行ってきました。学生時代に知った海岸工学の楽しさ（苦しさ？）を仕事に生かしたいと思い、修了後は海岸・河川・湖沼・海洋などの「水」を専門とする建設コンサルタントに勤務し、今年で10年と半年が経ち



ます。「水」と言っても、その仕事内容は多岐にわたり（私の場合は特に関わった分野が多い。単に異動が多いからかも？）、これまで津波、高潮、海岸波浪、河口閉塞、魚の生態分析、貧酸素水塊（酸素が無い水の水塊）、干潟の造成、河川治水、湿原の形成など様々な分野に携わってきました。土木工学は、英語で civil engineering と言いますが、生活インフラ整備において困っている人を誰でも助ける（コンサルをする）と言う概念から見ると、少しは世のため人のために役立っているかな、とも思っています。現在は、日本で一番大きい砂嘴である北海道野付半島において、漂砂対策（砂の侵食を防ぎ、波が陸に遡上しないようにする対策）を主に実施しています。

技術士の受験の動機は至って単純明快、自分の意見・考えを相手に信頼してもらいたい、そのため、自分を技術者として証明する身分証明書を持ちたいとの動機からです。現在は、まだ1つの部門の資格しか無い為、これから1つでも増やす努力をしなければいけないと思っています。技術士試験は、どんなに知識を持っていても、与えられた問題を短時間で理解しその答えを紙と鉛筆で証明しなければならないことに加え、試験官へ納得させる解答を作成しなければならないことから、それなりの準備は必ず必要だと考えます。ただ本試験は、アメリカの PE (professional engineer) 試験や大学センター試験のマークシート試験とは異なり、制限時間の間に紙約9枚/約6時間に記述しなければならないため、かなりの苦痛（手が特に痛くなる）であることは否定しません（今年度から試験に選択問題が加わっている）。

最近では、コンサルタント業務での本来の仕事に加え、仕事で得たデータを更に掘り下げて解析し、その結果を研究論文にまとめるよう心がけています。技術士の継続研鑽に当たるでしょうか。今年は、海岸工学の分野で、いくつか投稿を考えています。年に数回、論文講演会会場で旧知の全国の技術者や研究者と歓談することは、これからの仕事の大変さとやる気の間の潤滑油となっています。

札幌勤務であることもあり、中大技術士会の会合等への参加はなかなか難しいですが、メールでも web サイトでも活動内容が拝見できるため、更なる充実・情報の提供を期待しています（若手技術者に関する情報が少ないのが気になる？）。

少し肌寒くなった札幌から 堀江 岳人

■ 「技術士受験を通じて」：板谷越 朋樹さん（建設部門）

1. はじめに

皆様、はじめまして。平成 11 年 3 月に理工学部土木工学科を卒業し、平成 13 年 3 月に理工学研究科土木工学専攻を修了しました板谷越朋樹と申します。現在、私は社会基盤整備や環境保全を得意とする総合コンサルタント会社に勤め、技術士（建設部門：平成 20 年 4 月登録）として河川に関する調査・解析・設計などを行っています。

技術士合格を目指す社会人あるいは学生の皆さんにとって、少しでも役に立つ情報が提供できればと思い執筆致しました。拙文ではありますが、最後までお読みいただければ幸いです。



2. 受験の動機

私が携わる仕事は、主に国土交通省や地方自治体を顧客としています。技術士の資格は「高等の専門的応用能力」を備えた技術者の証明書であり、受注要件においても必須の資格となっています。また、一技術者として責任ある立場で仕事をするためには技術士は必要不可欠な資格と言えます。このため、私は入社して間もなく自然に技術士の必要性を意識するようになりました。

3. 準備の方法

技術士試験を受験するにあたり、私（あるいは周囲の合格された方）の取り組みについて紹介したいと思います。

① 心の準備（決意）

あまり重要視されていないような気がしますが、心の準備は大事です。技術士に限らず、自分の人生にとって必要なモノは何か、なぜ必要なのか、どう活かすのか、と掘り下げて気持ちを固めておくことは、継続して物事に取り組むうえでとても大事なことだと思います。

② スケジュールの作成

次に自分なりのスケジュールを立てておきましょう。少なくとも私と同じ業界の方々であれば、多忙な仕事の傍ら長期間継続して勉強するのは難しいと思います。3~4 カ月、集中して勉強するのが効率的のように思います。勉強する曜日・時間帯を決めるなど、自分に合ったスケジュールを立てると良いと思います。

- 例
- ・4 月：申込書の作成（業務経歴、業務内容の詳細）、過去問の分析
 - ・5~6 月：記述論文の模範解答の作成（国土交通白書等の文献チェック等）
 - ・7 月：反復練習、最終調整など

③ 申込書

平成 25 年度から「業務内容の詳細」を書くことになり、これまで以上に申込書の重要性が高くなったと言えます。口頭試験を意識した記述になっているか、技術士として相応しい文章が書けているかなど、周囲に有資格者がいる方はチェックしてもらうことをお奨めします。

④ 筆記試験

試験勉強の方法についてよく質問されますが、「これはお奨め」という方法は特にありません。過去問を解く、新聞・専門誌を読む、論文を書く等々、一連の勉強を根気よく続けるしかありません。論文を手書きで書く大変さも早いうちから慣れておくべきでしょう。

参考までに、以下のホームページは技術士試験に関する情報がとても充実していますので、ご紹介します。「技術士受験を応援するページ『SUKIYAKI 塾』」(<http://www.pejp.net/pe/>)

⑤ 口頭試験

口頭試験では、冒頭の 5 分程度で経歴・経歴論文について聞かれることになると思います。手元に資料が何もない状態で詰まることなく話し続けるのは、思いのほか難しいです。予め体感しておくと思いいます。模擬面接を行うことをお奨めします。(私は 4 回やりました。)

4. 受験の感想

合格までの道のりを思い返すと、総じて大変だったというのが正直なところです。特に口頭試験の直前は夢でうなされるほどでした(笑)。ただ、これまでの自分がやってきたことを振り返り、自分の強みや弱みを見つめるととても良い機会であったと感じています。

5. おわりに

いろいろと思いつくままに書きましたが、私の周囲を見回すと忙しい人ほど合格率が高いように感じます。仕事が多忙で十分な勉強ができなくても、合格の可能性があるので書き添えます。

「まだまだ半人前」という反省と、「技術士」としての自覚を胸に今後も精進してまいります。最後に、これから受験される皆様の合格を心よりお祈り申し上げます。 — 以上 —

技術士第一次試験合格者から

このコーナーでは、技術士一次試験合格者の方に受験の動機、勉強方法、技術士への思い等について書いていただきます。今回は、建設部門で一次試験に合格した香月亜記範さんと押田記一さん、また機械部門で一次試験に合格した佐藤基司さんを書いていただきました。三人とも、二次試験合格に向けて頑張ってください。

■ 「日本の技術で世界に貢献できる人材を目指して」：香月 亜記範さん（建設部門）

皆様はじめまして、香月と申します。2011年中央大学大学院理工学研究科土木工学専攻を修了し、現在三井造船株式会社にて海外プラントの土木設計に携わっています。この度は中大技術士会より、技術士第一次試験に関する準備方法や感想について執筆する機会を戴きましたので、簡単にではありますが私のケースを以下に紹介させて戴きます。



1. 受験の経緯

最初に第一次試験を受験したのは修士1年の時でした。残念ながら当時は合格することができず、そのまま大学院を修了してしまいました。

その後、現在の会社に入社し、海外案件を担当する部署に配属されました。「海外なら資格の有無で業務を制約されることもないし、このまま日本の技術士を取らなくても大丈夫かな」と思いつつ1年が経ちました。しかし、海外という法律・基準・規制の違う（あるいは整備されていない）環境での業務を経験するうちに、日本で培われたやり方（計算方法・実証実験の記録・設計手法・実績・運用後の観測値等）を理解し活用していくことの重要性を感じる様になりました。そこで、日本の技術を身につける為に技術士への再挑戦を決意しました。

2. 学習方法

試験対策を始めたのは試験の3ヶ月前くらいからでした。社会人になり業務も忙しく、平日はなかなか机に向かう纏まった時間を確保することができませんでした。そこで、平日は電車での通勤時間を活用して過去問や参考書を読み、土日に机に向かって勉強する時間を確保するというマイルールを作り、実践していきました。

平日の読みの時間では、解説を読んでいても分からない箇所についてはスマートフォンやタブレットを用いてその場で必ず調べて覚えるという学習をしていきました。また、土日の勉強の時間では、まず実際に時間を測りテスト形式で2年分過去問を解き、その結果から自分の苦手とする分野且つ出題数の高い分野に絞りを絞り、大学在籍時に購入したテキストを用いて復習しました。

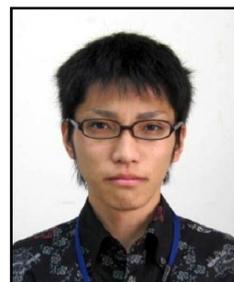
上記の方法で、限られた時間を自分なりに有効活用し、また試験当日まで諦めずに継続できたことが、今回の合格につながったと思っています。

3. 二次試験への豊富

冒頭にも記している通り、現在の私が携わっている業務（海外案件の土木設計）を行う上では、直接的に技術士の資格が必要になることは滅多にありません。しかし、今後私の設計した構造物が海外の人々から高い評価を戴く為には、日本で培われた経験・技術を学んでいく必要があると感じます。その為にも、次は二次試験を突破し、日本の技術士として良い仕事をできる人材になれる様、これからも日々精進を重ねていきたいと思っております。

■ 「憧れの技術士」：押田 記一さん（建設部門）

こんにちは。平成 19 年度に理工学部 土木工学科を卒業した押田 記一と申します。現在建設コンサルタントでまちづくりに係る調査・計画業務を担当しています。今回は私が技術士を目指すきっかけとなったお話をさせていただきます。



※沖縄の正装
「かりゆし」です

①きっかけは技術士の先輩方への憧れ

私が技術士を目指すきっかけとなった出来事は、平成 23・24 年度に震災復興業務の支援で沖縄から転勤となり、被災地の震災復興業務で関わった技術士の先輩方への憧れです。

当初私の技術士に対する考えは、資格は持っていた方が役に立つだろうという程度の想いでした。そんな中、震災復興業務で関わった社内の先輩、そして社外の関係者の方々の多くが技術士で、幅広い知識と経験を踏まえて復興業務に取り組む姿を目の当たりにし、自分も技術士になりたいと強く思うようになりました。

また、震災復興業務はスピード感のある事業展開が求められ、これまで自分の取り組んできた調査・計画関連の業務だけでなく、設計・施工を見据えたまちづくりの全体像を把握出来なければならぬと認識しました。その結果、試験勉強は単なる勉強ではなく、自分の見識を広げるためにも幅広い知識の習得が必要であると理解しています。

②試験の準備方法

業務が忙しいと仕事を優先することで試験勉強の時間を確保できなくなります。そのため、試験勉強は空いた時間を効率よく利用し、実際の業務と関連付けながら勉強することが効果的だと思います。

業務で携わっている専門はあまり勉強が必要ないかと思いますが、異なる専門は勉強した内容が実際どのように活用されているのかがイメージ出来ずに苦慮していました。

そのため、可能な限り業務で自分が担当している専門だけでなく、様々な業務・様々な専門に興味を持つことを心がけ、先輩に話を伺う機会を増やし、試験勉強と実業務がどのように結びついているのかを把握したことが、有意義な勉強方法だったと感じています。

③二次試験（技術士）への抱負、等

業務に取り組んでいる中で常日頃から感じることは、大学卒業後も日々勉強の毎日で、大学生の頃からもっと勉強しておけばよかったと思うことです。

そのため、自分の業務に精一杯取り組むとともに、勉強を継続することによって、知識と経験を兼ね備えた技術士になれるよう努力していきたいと思っています。

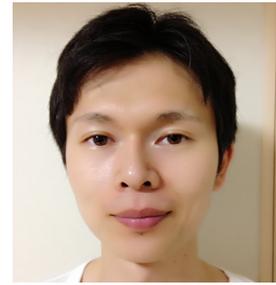
最後になりますが、大学卒業後は中大の OB の方々と関わる機会を持つことが出来ず、全国で活躍されている諸先輩方の話を伺いたいと感じていました。そのような中で中大技術士会の一員となれたことに感謝しています。

現在も遠隔地にいるため、中大技術士会の講演会等に参加できておりませんが、様々な機会に先輩方の話を伺う機会を持っていただければと考えております。

■ 「技術者として」：佐藤 基司さん（技術士補 機械部門）

中大技術士会の皆様、はじめまして。2009年理工学研究科 精密工学専攻修了の佐藤基司（サトウモトシ）と申します。今後ともよろしくお願いたします。

まず初めに少しでも自己紹介をさせていただきます。出身は北海道札幌市、現在は千葉県に住んでおります。私は JR 東海で中央新幹線計画に関する技術的検討を担当しております。まさに今、注目を浴びる事業となっており、2027年中央新幹線開業に向けて日々頑張っています。



1. 受験の動機

入社して今年で5年目になりますが、日々業務を進める中で技術的な判断が求められ、その際、機械工学の知識が必要になると感じました。私は去年まで山梨で新実験線の工事を担当しました。現場で問題が発生した際は、技術的根拠に基づき、迅速な判断が求められます。技術的判断力が足りず、そのたびに上司に指導されたことをよく覚えています。そんなとき、機械技術者として技術士一次試験の内容は最低限知っておくべき内容だと思い、受験することにしました。

2. 試験に向けた準備

私が受験したのは機械部門です。機械部門といっても、専門科目、基礎科目、適性科目と分類され、専門科目については材料力学、機械力学、制御工学、流体力学、熱力学と幅広く出題されます。基礎科目、適性科目については過去問、参考書を用いて学習を進めていき、専門科目については過去問、参考書に加え、大学時代の教科書を使って学習を進めました。苦労したのは勉強時間の確保です。仕事もあるので、学習時間の確保がとても難しかったです。そこで、出勤前の30分だけ勉強の時間を作ったり、週末に図書館に行き勉強しました。5月～8月は専門科目を中心に学習を進め、9月、10月は基礎科目、適性科目を中心に学習を進めました。苦労しましたが、10月の試験本番に向けて、計画的に進めることができました。

3. 受験をした感想

問題数が多いので、「この問題はこの式を使う」と瞬時に判断しなければならないと思いました。そのためには、多くの問題を解くことが必要であると思います。中でも苦労したのは、「基礎科目」です。基礎科目は幅広い分野から出題されます。化学、情報、エネルギー等は学生時代も触れない分野だったので、非常に苦戦しました。そこで、確実に解ける問題（機械工学、数学、解析に関する問題等）を確実に解くことが重要だと思います。

4. 二次試験合格に向けた抱負

「技術士」は私たち技術者にとって、とても栄誉ある資格です。技術者として是非「二次試験」に挑戦したいと思います。そのための準備として、学習計画を立て、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。また、「中大技術士会」という心強いバックアップもあります。たくさんの方からお話を伺い、ご指導頂ければ幸いです。合格に向けて全力で頑張ります。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org
2013年10月号 中大技術士会 広報部会 発行